



第2740地区 創立/1990年9月29日 認証/1990年10月22日

# 佐世保中央ロータリークラブ週報

会長：馬場 貴博 / 副会長：宮崎 正典 / 幹事：片桐 康利



2023～2024 年度クラブスローガン

はがにいっしょう

「破顔一笑」

みんなで語り合えるクラブになるために

週報編集 / 公共イメージ・会報委員会：山口 裕之、川上 仁哉、西村 浩輝、古川 直記、四元 清安、田中 啓輔、倉科 聡一郎、藤井 寿人

本日の出席率76.60%：会員数53名・出席28名・欠席11名・出席規定免除会員8名・ビジター1名  
前々回の修正出席率89.79%：出席35名・メークアップ0名・出席規定免除会員9名

## 会長挨拶 / 馬場 貴博君



皆様こんにちは、本日も例会に参加頂きありがとうございます。

本日は佐世保史談会 会長の中島眞澄様を卓話でお招きしております。卓話楽しみにしております。

今回、地区大会に全員登録をして頂きありがとうございました。懇親会には24名の御登録、ゴルフには多数の御登録を頂き改めて感謝申し上げます。ただ可能であるならば今からでも構いませんので懇親会又は記念ゴルフの御参加頂ければ幸いです。私自身も県連大会とか全国会長会議とか主管・副主管の長を務めた事があります。生みの苦しみも経験しましたし逆に終わりの喜びも経験しました。今まさに北RCはこの地区大会に関して生みの苦しみの段階におられるのではないのでしょうか、我々のスポンサークラブの佐世保北RCを助ける時だと思えます。どうぞ会員の皆様のご協力をお願いいたします。

さて来月には創立記念が参ります。33周年この機に私は周年事業の在り方について今まさにどうあるべきかを戦略計画委員会に議題として取り上げて頂く指示を委員長にしています。まだまだ財政の基盤の厳しい当クラブにおいてはたして5とゆう数字の周年をどうするべきかを、改めて考え直してみたいと思えます。〇周年と同じく5周年をやるべきか否か数字を見れば皆様ご理解いただけると思いますので、今後のクラブフォーラム、あるいはクラブ協議会の中で協議したいと思っております。

## Report 幹事報告 / 片桐 康利君

### 1. 来信

- ガバナー事務所
  - ・2023-24年度の賞・表彰の機会
- 佐世保西RC
  - ・第5回 市内RC会長幹事会のご案内  
11月14日(火) 18:30～  
シェ・オリーブ

## ロータリー情報

### 田端 真人君

皆様こんにちは、創立式典までいよいよ3週間と迫って参りました。現在委員会としては、粛々と準備を行って要るところでございます。

創立記念式典を盛況に行う為には、やはりコーラスの皆様のお力添えが必要不可欠と思っております。当時迄、後2回練習が開催されますので、男性コーラスの皆様是非ともご参加頂き、当日を迎えていただければと思います。よろしく願いいたします



## 結婚記念日

9月13日 芥川 圭一郎 ・ 香織 ご夫妻  
9月15日 本田 実 ・ 由美 ご夫妻  
9月15日 片桐 康利 ・ 彩 ご夫妻

## (^\_^) ニコニコボックス

### 馬場 貴博会長・宮崎 正典副会長・片桐 康利幹事

本日は第3回クラブフォーラム、社会奉仕委員会の担当となります。卓話者に佐世保史談会の中島眞澄様をお呼びして、佐世保の歴史について学んでいきたいと思っております。本日もよろしくお願ひいたします。

### 池永 隆司君

前日の第2回中央会に参加して頂いた皆様、お疲れ様でした。皆様のご協力で18ホールを回る事が出来ました。さて、先週ニコニコBOXをご披露しましたが、川野知文君より頂いたニコニコが1本入っていたのを忘れていました。すみませんでした。

### 前田 眞澄君

みなさんこんにちは。昨夜、2022-2023中央会でやっと打ち上げが出来ました。南部中央会会長にはごちになりました。南部会長が一度もプレーが出来なかったのが心残りではありましたが、皆さんのお陰で年間予定したコンペと8RCゴルフコンペを恙なく終える事が出来ました。ありがとうございました。

### 八重野 一洋君

本日の卓話者中島先生は中学校時代の剣道の恩師です。まさか本日お会い出来るとは！感激しております。お元気そうで何よりです。ニコニコします。

### 深堀 博英君

田端さん、牛島先輩の叱咤激励のおかげで中央会優勝出来ませんでした。馬場会長申し訳ございませんでした。

本日の合計	11,000 円
本年度の累計	384,000 円

## 本日の卓話

### ◆第3回クラブフォーラム◆

### 佐世保史談会

### 中島 眞澄様

#### 「輝いていた古代の佐世保」

佐世保は明治22年(1889)7月、海軍鎮守府が開庁したことから、それ以来発展した都市だと思われている。九州の西端の名もなき村が明治政府の富国強兵政策で海軍の町として大きく発展した。以後ゴールドラッシュのように近隣から多くの人たちが佐世保に流入した。こうして明治35年(1902)市制施行に至った。歴史は浅いながらも市内の随所に旧海軍の遺構即ち近代化遺産が残されている。しかし、そのことが佐世保の歴史の全てではない。



また、これは突然降って湧いたような出来事に要因するものではない。此の地に住む人々が長い年月を刻んで作り上げてきた歴史の重みが流れていることを知らねばならない。多くの地域がそうであるように、どの地域も輝いていた時代があったのである。私はその輝いていた佐世保の歴史の一端を明らかにする。別の視点で佐世保を見直してほしいと思う。

幸い戦後の自由な学問の発展の中で、文献資料には見られない考古学上の調査が実施され、佐世保の旧石器・縄文・弥生時代のヒトの実態が明らかになった。特に昭和30年代から50年代にかけて、「泉福寺洞窟」の発掘調査した千葉大学名誉教授麻生優や「福井洞窟」を調査した東北福祉大学教授芹沢長介らの研究は我が国の歴史を大きく変えることとなり、西海のへき地サセボから文化を発信していた様相が解明されたのである。しかし古代(古墳・奈良・平安)の佐世保の実態は不明で謎のままであった。

謎を解く鍵が、近年の発掘調査でその状況が明らかになってきたのである。平成13年から6年間西九州道路建設の建設に関わって、「門前遺跡」や「竹辺C・D遺跡」の発掘調査が実施された。現在の相浦・中里インターチェンジ付近である。これらの調査で明らかになった古墳時代から古代(奈良・平安)にかけての佐世保がどのような地域だったかを解明してみたい。

#### 1. 『肥前國風土記』に見る佐世保

奈良時代の和銅6年(713)朝廷は、各国毎に地名・伝説・特産物・風俗・信仰などをまとめた風土記の編纂を命じた。現在残っているのは『肥前國風土記』など5ヶ国のものである。佐世保の中の地名が登場するのは、歴史上初めてのことである。同風土記によれば、現在の佐世保は彼杵郡(そのぎのこおり)と松浦郡(まつらのこおり)に属していたことになる。しかしここでは彼杵郡の一部として記載されたことにふれたいと思う。

速来村の速来津姫(はやきつひめ)はいうまでもなく現在の早岐の支配者を指していると思われる。古代から近代にかけて早岐は重要な湊でもあった。また、速来門(はやきのと)は早岐瀬戸を指していると解釈している研究者が一般的である。この地方の土蜘蛛を天皇が支配するようになった経過を述べている。問題は健村之里とその支配者速来津姫の弟健津三間のことである。

多くの研究者が武辺郷(しかしこのような名称はない)だという。川井石寿は三川内付近ともいい、確定されてはいない。私は竹辺から中里付近を指すと思っている。地名だけでは単なる解釈論になるので、ここでは考古学の視点で近年行われた発掘調査の成果から検討を進めて見たい。その結果、西海の名もなき海辺の湊から大きな文化が発信されていたことが明らかになってきた。

#### 2. 埋蔵文化財の調査

##### (1) 門前遺跡の報告書

##### ① 弥生・古墳時代の門前遺跡

○周辺部も含めて大規模な拠点集落の可能性 首長

